

2016年度第2四半期（4-9月）決算の概要

1. 経営成績

- (1) 連結売上高は、原料価格下落に伴う販売価格の改定などにより、前年同期比8.2%減の720億円となりました。
- (2) 利益面では、円高は進行したものの、原料価格の下落、販売数量増およびコストダウンなどにより、連結営業利益は前年同期比25.0%増の75億円、連結経常利益は為替差損もあり、前年同期比14.4%増の75億円となりました。
- (3) 中間配当は、前期末配当と同じ1株当たり9円とさせていただきます。

(単位：億円)

	連 結			単 体		
	2015年度 第2四半期累計	2016年度 第2四半期累計	伸び率(%)	2015年度 第2四半期累計	2016年度 第2四半期累計	伸び率(%)
売 上 高	784	720	△8.2	497	477	△4.1
営 業 利 益	60	75	25.0	27	41	52.1
経 常 利 益	65	75	14.4	40	54	33.2
四 半 期 純 利 益(*)	36	52	43.2	30	42	41.2

(*) 連結ベースでは、「親会社株主に帰属する四半期純利益」

2. セグメント別連結売上高

(単位：億円)

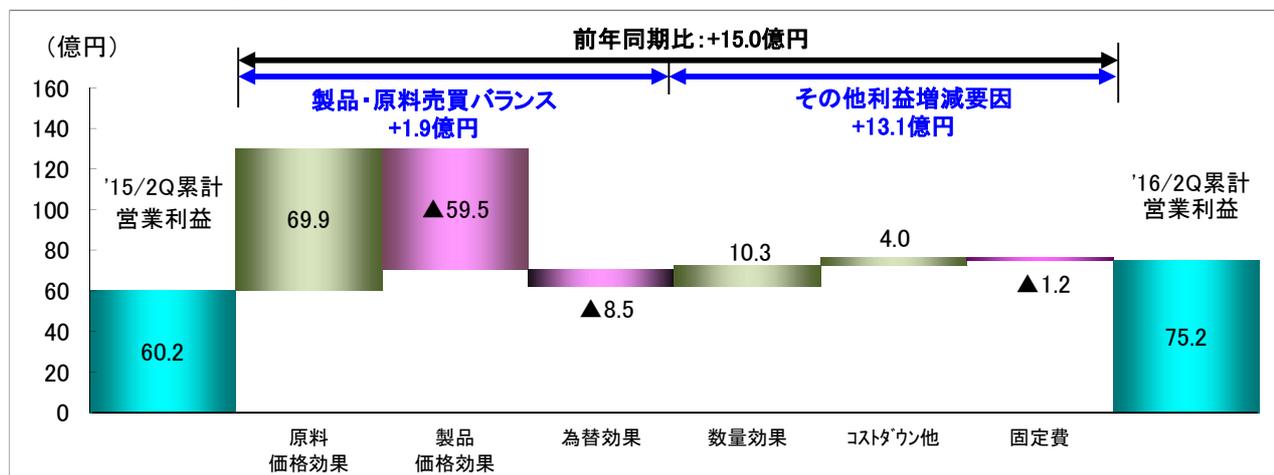
	2015年度 第2四半期累計		2016年度 第2四半期累計		前年同期比	
	売上高	構成比(%)	売上高	構成比(%)	増減	伸び率(%)
生活・健康産業関連	296	37.8	261	36.2	△36	△12.1
石油・輸送機産業関連	192	24.4	174	24.2	△18	△9.2
プラスチック・繊維産業関連	107	13.7	106	14.7	△1	△1.2
情報・電気電子産業関連	96	12.3	100	13.8	4	3.6
環境・住設産業関連他	93	11.8	80	11.1	△13	△13.9
合 計	784	100.0	720	100.0	△64	△8.2

3. セグメント別連結営業利益

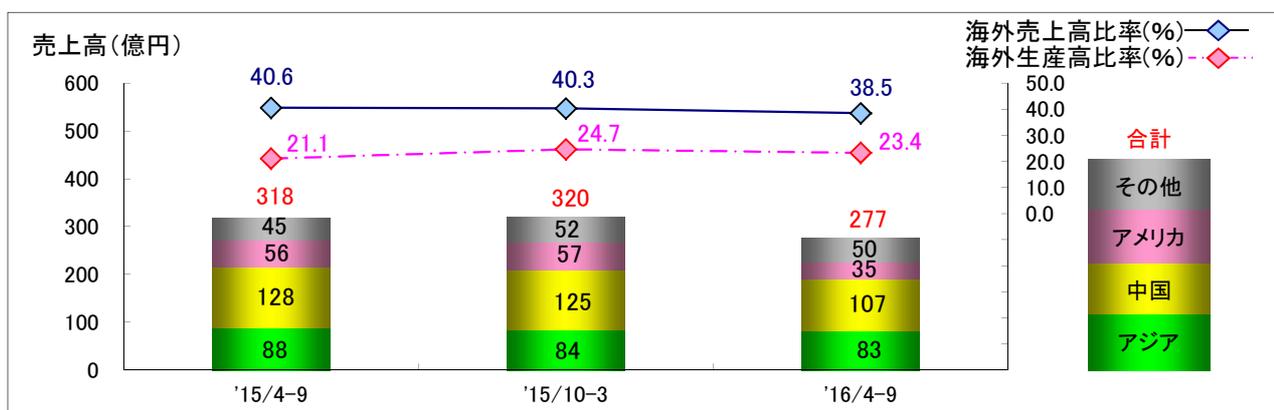
(単位：億円)

	2015年度 第2四半期累計	2016年度 第2四半期累計	前期比	
			増減	伸び率(%)
生活・健康産業関連	24.0	25.5	1.4	5.9
石油・輸送機産業関連	9.2	8.1	△1.1	△12.4
プラスチック・繊維産業関連	15.7	21.0	5.3	33.9
情報・電気電子産業関連	7.0	15.4	8.3	118.3
環境・住設産業関連他	4.2	5.4	1.1	27.1
合 計	60.2	75.2	15.1	25.0

4. 連結営業利益の増減分析（前年同期比）



5. 連結海外売上高の推移



6. 配当の状況

2016年10月1日で普通株式5株につき1株の割合をもって株式併合を実施しております。2016年度の1株当たり期末配当金につきましては、当該株式併合の影響を考慮した金額を記載し、年間配当金合計は「-」として記載しております。

	1株当たり配当金			配当性向 (連結)
	中間	期末	年間	
	円銭	円銭	円銭	%
2014年度	7.50	8.00	15.50	29.1
2015年度	8.00	9.00	17.00	27.1
2016年度	9.00	45.0 (予想)	-	20.5 (予想)

7. 2016年度業績予想

当第2四半期連結累計期間の業績は順調に推移しましたが、為替や原材料価格の動向など不透明な要素があることから、平成28年4月公表の「平成29年3月期の連結業績予測」を据え置くこととしております。

（単位：億円）

	連 結			単 体		
	2016年度	前期比		2016年度	前期比	
		増減	伸び率(%)		増減	伸び率(%)
売 上 高	1,580	0	0.0	990	△7	△0.7
営 業 利 益	138	13	10.5	72	16	27.5
経 常 利 益	145	12	9.1	98	19	24.3
当 期 純 利 益(*)	97	28	40.0	78	20	34.0
R O E (%)	8.4	2.2	-	7.5	1.7	-

(*) 連結ベースでは、「親会社株主に帰属する当期純利益」

＜業績予想の前提条件＞ 為替レート：105円/\$、国産ナフサ価格：35千円/KL

8. 主な設備投資と減価償却費

(1) 設備投資額（検収ベース）、減価償却費の推移

(単位：億円)

	連 結		単 体	
	2015年度 第2四半期	2016年度 第2四半期	2015年度 第2四半期	2016年度 第2四半期
設備投資額	45	49	24	22
減価償却費	43	※ 35	29	※ 21

※ 従来から定額法を採用している海外連結子会社等と合わせて、当社グループの採用する減価償却方法は定額法に統一されました。また、従来の方法に比べて、当第2四半期連結累計期間の減価償却費が連結で8億円、単体で6億円減少しております。(表中の数値は定額法)

(2) 主な設備投資

(単位：億円)

	設備投資アイテム	稼働時期	総投資額
単体	重合トナー中間体製造設備	2016年10月	16
	電池材料用研究開発設備	2017年1月	5
	潤滑油添加剤製造設備（新製品対応）	2017年10月	9
SDPグローバル(マレーシア)	高吸水性樹脂製造設備	2018年度	110

9. トピックス

(1) 高速測定が可能な検査試薬キットのラインアップを拡充

当社は、高速測定が可能な自動化学発光酵素免疫分析装置『アキュラシード』専用の試薬キット『アキュラシード』シリーズのラインアップを拡充、4月1日より和光純薬工業株式会社を通じて本格販売を開始しました。

新しく販売を開始した8項目を加え、『アキュラシード』シリーズのラインアップは現在10項目。今回は、患者数が多く、検査する機会も多い心疾患、ガン、糖尿病について拡充しました。今度も現場のニーズに応じてラインアップの拡充を続けます。

(2) 衣浦工場における電池材料用研究設備新設

エネルギー関連材料が堅調な需要の伸びを示していることから、当社は電池材料を第9次中計の重要研究アイテムの一つと位置付け、既存の研究所（京都本社、桂）に加え、新たに衣浦工場に研究設備を設けることを決定しました。新設備への投資額は約5億円、操業開始は2017年1月です。

以 上